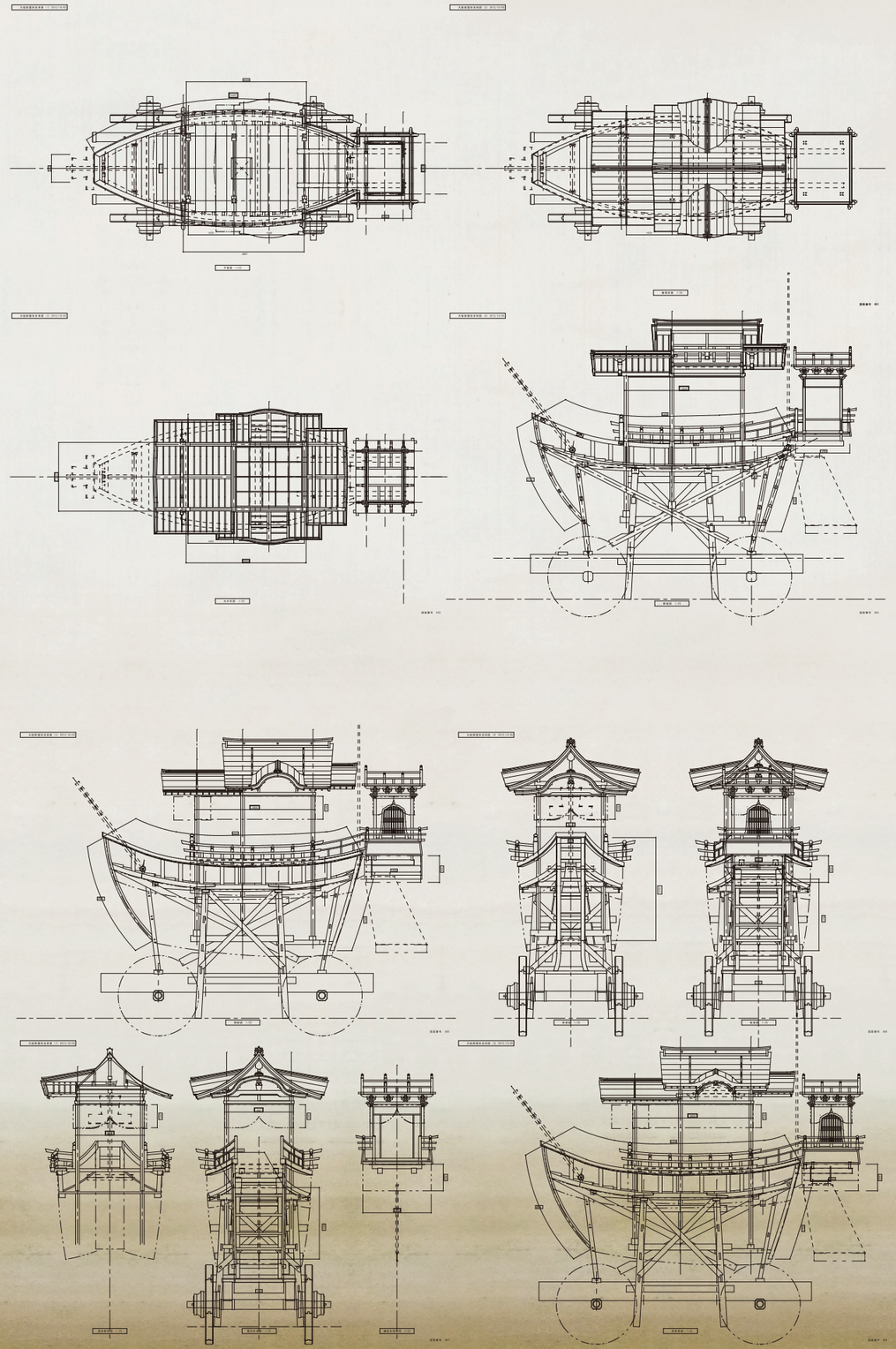

凱旋

祇園祭大船鉾復原の歩み
―基本設計図完成報告書―

公益財団法人 祇園祭山鉾連合会

凱旋

祇園祭大船鉾復原の歩み
―基本設計図完成報告書―

大船鉾復原検討委員会編
2013年3月

図版①　大船鉾復原想定図

イラスト・中川未子（よろずでざいん）

図版②　大船鉾遺品類

②-1 大金幣

②-2 舵

②-3 前掛幕

図版③　大船鉾「祇園祭礼図屏風」（個人蔵）部分

図版④　大船鉾　京都市無形文化遺産展示室（京都ヨドバシビル１階）

（平成 23 年 10 月 21 日撮影）

図版⑤　大船鉾唐櫃巡行　平成 24 年（2012）7 月 17 日　祇園祭にて

ごあいさつ

祇園祭後祭の山鉾の最後尾を巡行していた大船鉾は、元治元年（1864）の大火によって焼失した。この大船鉾の再興については、四条町はもちろん、われわれ祇園祭山鉾巡行に関わる全てのすべての人間の課題の一つとして積み残されてきたものである。

今回の文化庁の補助事業として、大船鉾の復原設計に取り組んだことは、四条町の人々の長年にわたる取り組みと、それを支えてきた熱意に呼応するように、周囲の環境も整ってきたという一つの精華である。

しかし、一口に大船鉾の復興と言っても、それは簡単なことではない。祇園祭が歩んできた歴史と伝統を踏まえ、厳格な調査と有識者による検討を重ね、国の重要無形民俗文化財として、またユネスコ無形文化遺産としての品格を保持した、新しい祭りとして再生していく必要があった。

幸い、四条町には、鉾を装飾した懸装品や、神功皇后御神体人形とその周辺の調度品など、焼け残った遺品類が大切に保管されてきた。これらは、幕末以前の制作年代と考えられるもので、綴織、紋織、刺繍などの技法を使った、前懸、後懸、水引、舵などは、一部に改変痕などもみられるものの、ほとんどが作制当初の状態で保存されている。その質は高く、平成 19 年 3 月には京都市の有形民俗文化財に指定もされている。

これらの遺品は、祇園祭の期間中、居祭としてご町内でお飾りを続けてこられた。それは、いつか大船鉾を再興したいという想いに突き動かされていたに違いない。

平成 9 年には、四条町大船鉾囃子方が組織され、宵山における祇園囃子が復活し、平成 24 年には唐櫃巡行の形をもって、山鉾巡行に復帰を果たした。残るはいよいよ、大船鉾の復活である。

本事業によって示されたチャート（海図）が、大船鉾の新たなる船出に追い風となることを祈念して、はじめの言葉にしたい。

平成 25 年 3 月吉日

公益財団法人祇園祭山鉾連合会理事長　吉田 孝次郎

はじめに

蛤御門の変（禁門の変）によって、大船鉾が罹災してから約150年。四条町の皆さんは、祇園祭の期間中、焼失を免れた御神体の神功皇后の御神面や懸装品を、四条町内においてお飾りする「居祭」の形式で祭に参加し続けてきた。そして平成9年（1997）には、四条町大船鉾囃子方が組織され、宵山における祇園囃子を復活された。

平成24年（2012）の祇園祭では、唐櫃巡行の形で山鉾巡行に復帰した。いままさに、大船鉾は復興の時を迎えようとしている。

――委員会設置に至る経緯

京都祇園祭の山鉾巡行は、国指定の重要無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている。復興する大船鉾は、その一翼を担うはずのもので、にわか作りのものであってはならない。このことは、四条町大船鉾保存会はもちろん、保存団体である祇園祭山鉾連合会も十分に認識されていた。

それを実現するためには、関連資料を博捜して学術的な検討を重ね、文化財としての価値を担保する取り組みが不可欠である。その目的を果たすために組織されたのが大船鉾復原検討委員会であった。関係各分野の学識経験者を招くほか、オブザーバーとしてではあるが、京都府・京都市の文化財保護に関わる行政にも加わってもらい、積極的に協力を仰ぐことになった。とくに京都市には、後述のとおり、京都市無形文化遺産展示室のオープン展示にかかわる経過もあって、資料の収集整理をはじめとして特段の尽力をいただいた。

――委員会の役割

かなり以前の話になるが、小生は祇園祭の綾傘鉾の復興（昭和54年巡行）をはじめ、蟷螂山の復興（昭和56年巡行）、四条傘鉾の復興（昭和63年巡行）にも関わった。望外の幸せというべき出来事であったが、いくつか思い残した点があった。これらはいずれも、踊りやからくりと一体の山鉾である。傘鉾や御所車など造形物の復元だけでは完結しないものであり、それ故の特有の困難があり、参照すべき資料にも恵まれなかった。今回の大船鉾は山鉾そのものであり、幸いにも、文献史料のほか絵画資料も豊富である。加えて四条町には、鉾の懸装品や御神体人形、その他もろもろの調度品など、焼け残った遺品類が大切に保管されている。それらの豊富な資料を十分に吟味し検討しなくては、真の復興とは言えないことは火を見るより明らかである。委員長の役割は、それらの資料を踏まえ、各委員の多様な意見を可能な限り引き出し、諸分野の総合的検討を重ね、最善の復原案を策定することにある。身に余る重い課題であったが、委員各位の

展示室開室式典のお囃子演奏
（平成 23 年 10 月 23 日）

熱意あるご尽力を得て、重要無形民俗文化財としての価値を保持するに足る復原基本案を策定し、基本設計図の作成を行うことができた。本書はその報告書である。四条町大船鉾保存会と祇園祭山鉾連合会の付託に応えうるものになったと思うが、それだけでなく、全国の山・鉾・屋台の祭礼行事の復活にとって一つの規範にもなるであろう。

平成 24 年 7 月 17 日の唐櫃巡行

――委員会の成果

平成23年（2011）10月23日、京都駅前のヨドバシビル１階に、京都市無形文化遺産展示室がオープンした。ここに、復興途中の大船鉾を展示することになり、検討委員会の審議を経た基本設計図に基づいて、船体の工事に取り掛かることになった。

この時点では、まだ屋形や艫屋形についての設計ができていなかった。しかし、工事の範囲がそれら上屋を除いた船体部分に限ることとなっており、さしたる問題なく工事に移行できた。

むしろ、基本設計がこんなにも早く活かされたということは、まことに僥倖であった。そしてこの船体部分の復原によって、大船鉾は具体的にイメージされ、現実感が急速に高まっていった。囃子方が乗り込んでの「祇園囃子」演奏もそれを加速し、復活への想いが実を結び、唐櫃巡行につながったといえよう。

――大船鉾のこれから

以上のように、検討委員会は基本設計の策定という一定の役割を終え、解散することとなる。だが、今後も大船鉾の復興のための事業は続くし、むしろこれからが本番だといわねばならない。

これから計画されるであろう胴幕その他の懸装品、御神体とその衣装、漆塗装や飾り金具等々の本体部の装飾など、緊喫の課題が山積している。それらが復原案にもとづく仕様により、ベストな施工をいかに実現するかが問われるわけであるが、それについては、祇園祭山鉾連合会内に設置されている新調審議会および専門員会がその責任を負うこととなる。祇園祭山鉾連合会の真摯な取り組みに期待したい。

最後に、本書が全国の山・鉾・屋台の復活に取り組もうとされている保存会、諸団体、有志の皆様にとって、参考となり一つのモデルとして活かされることになれば、まことに幸いである。

平成25年3月吉日

大船鉾復原検討委員会委員長　植木　行宣

目次

図版
ごあいさつ　吉田孝次郎　1
はじめに　植木　行宣　3
目次／凡例　5

第１章　大船鉾の歴史　7
1.概略　京　都　市　8
2.絵画資料から見た大船鉾の形状の変遷　小嵜　善通　11
第２章　遺品類の調査報告　15
1.染織懸装品　藤井　健三　16
2.金工品　久保　智康　31
第３章　復原案　35
1.木部　末川協（監修 三上皓造）　36
2.人形　林　駒夫　47
3.懸装染織品その他布類　藤井　健三　50
4.金工品　久保　智康　52
5.木彫　水野　耕嗣　54

資料編（遺品類図版他）　63

大船鉾復原検討委員会前史　京　都　市　87
大船鉾復原検討委員会議事録　91
四条町大船鉾保存会の歩み　松居　米三　112

むすびに　松居　米三　116
協力者一覧

附図　木部設計図　末川　協

凡例

＊本書は、公益財団法人祇園祭山鉾連合会が、文化庁の平成 23 年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした観光復興・地域活性化事業）の助成を受けて実施した「大船鉾復原のための検討及び図面作成」及び、平成 24 年度同補助金の助成を受けて実施した「継承事業―大船鉾復原設計及び成果報告」の成果報告書である。

＊継承事業―大船鉾復原設計及び成果報告の推進のため、公益財団法人祇園祭山鉾連合会が呼びかけて大船鉾復原検討委員会を組織した。委員会の構成は以下の通り（平成 25 年 3 月現在)。

委員長	植 木 行 宣	元京都学園大学教授・祇園祭山鉾装飾品等新調審議会委員
委　員	三 上 皓 造	元学校法人京都建築学園京都建築専門学校長・祇園祭山鉾装飾品等新調審議会専門委員
委　員	林　　駒 夫	重要無形文化財「桐塑人形」保持者
委　員	水 野 耕 嗣	岐阜工業高等専門学校名誉教授
委　員	藤 井 健 三	西陣織会館顧問・祇園祭山鉾装飾品等新調審議会専門委員
委　員	小 嵜 善 通	成安造形大学教授・祇園祭山鉾装飾品等新調審議会専門委員
委　員	久 保 智 康	京都国立博物館名誉館員・祇園祭山鉾装飾品等新調審議会専門委員
委　員	末 川　　協	祇園祭山鉾装飾品等新調審議会専門委員

事務局　公益財団法人祇園祭山鉾連合会
　　公益財団法人四条町大船鉾保存会

オブザーバー
　　京都府教育庁指導部文化財保護課
　　京都府商工労働観光部染織・工芸課
　　京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課